



子どもの森づくり通信

(発行: NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

「子どもの森づくり運動」
フラグシップ園会報
(2015年2月号)

〒144-0054 東京都大田区新蒲田 1 - 1 0 - 4 tel:03-5711-0362 fax:03-5711-2264
http://www.kodomonono-mori.net mailto:info@kodomonono-mori.net

「子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。



九州で「子どもの森づくり運動」の研修会が
開催され、九州ブロックの共用フィールドである
阿蘇の「夢☆大地グリーンバレー」に苗木が
植樹されました。

(目次)

1. 「子どもの森づくり運動」2015年度活動カレンダー (案)
2. 「グリーンウェイブ2015」キックオフフォーラム参加レポート
- ◇ 「子森ネット」レポート：木工遊具づくり
3. 事務局からのお知らせ
 - ・どんぐり博士の育苗講座～野外活動の安全編④～

■「子どもの森づくり運動」とは

今子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかし、子どもたち(特に幼少期の)は、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「子どもの森づくり運動」は、全国の保育園・幼稚園を拠点に一貫した森づくり活動を通じて、幼児期の子どもたちに「生きる力」と「健全な環境意識」を育むための自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「J P子どもの森づくり運動」とは

特別ご協賛企業「日本郵政グループ」様との協働で、運動を全国に普及促進するフラグシップ活動を「J P子どもの森づくり運動」、フラグシップ活動実施園を「J P園」として活動を展開、2010年7月、フラグシップ園全国ネットワークが構築されました。

■「子どもの森づくり運動」運営体制

- ・運 営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)
- ・特別協賛 : 日本郵政グループ
- ・後援/協力

(社) 全国私立保育園連盟

(社) 大谷保育協会

(社) 国土緑化推進機構

NPO法人C・C・C富良野自然塾

(社) 日本森林インストラクター協会

NPO法人自然体験活動推進協議会

NPO法人MORIMORI ネットワーク

(社) 日本オート・キャンプ協会

(株) 実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部

保育環境研究所ギビングツリー



1. 「子どもの森づくり運動」2015年度活動カレンダー（案）

間もなく春となり、今年も野外での活動が始まります。各参加園では、新年度の活動計画づくりでお忙しい時期と思います。今月号では、「子どもの森づくり運動」における「苗木を見守る活動」や「苗木を植える活動」等、季節ごとの活動プログラム事例カレンダーと参加予定の環境イベントや展示会情報をお送りします。今年度からは、これまでの森を創る活動に加えて、出かけていった森で子どもたちが遊びながら、木や森の大切さを体感する「森の楽園（らくえん）」のプログラムもお届けできる予定です。今年度の活動計画づくりの参考にいただければ幸いです。各講座の詳細については、「事務局からのお知らせ」をご参照願います。



「子どもの森づくり運動」2015年度活動プログラム・カレンダー

活動 時期	主な活動	
	地域での活動	東北復興グリーンウェイブ
春	<ul style="list-style-type: none"> ● 育てている苗木をお披露目する活動 ● 植えた苗木の成長を見に行く活動（春） ● 森で遊ぶ活動「森の楽園（春）」 	<ul style="list-style-type: none"> ● 育てている苗木をお披露目する活動 ● 苗木を東北へ見送る活動 ● 第二回植樹会（5/22 岩手県山田町）
夏	<ul style="list-style-type: none"> ● 苗木を見守る活動（水やり、草刈り等） ● 森で遊ぶ活動「森の楽園（夏）」 	<ul style="list-style-type: none"> ● 苗木を見守る活動（水やり等）
秋	<ul style="list-style-type: none"> ● 地元の森でどんぐりを拾う活動 ● 地元の森や広場に苗木を植える活動 ● 植えた苗木の成長を見に行く活動（秋） ● 森で遊ぶ活動「森の楽園（秋）」 	<ul style="list-style-type: none"> ● 東北でどんぐりを拾って、全国の幼稚園・保育園に届ける活動 ● 全国の幼稚園・保育園の子どもたちが、東北から送られてきたどんぐりの苗木をポットに植える活動
冬	<ul style="list-style-type: none"> ● 植えた苗木を見に行く活動 ● 森で遊ぶ活動「森の楽園（冬）」 	

「子どもの森づくり運動」2015年度参加予定環境イベント、展示会

イベント/ 展示会名	実施予定日	会場
「ロハスデザイン大賞」	3月エントリー、投票開始	
「アウトドアデイジャパン」	4/4（土）、5（日）	代々木公園
第25回みどりの感謝祭 「みどりとふれあうフェスティバル」	5/9（土）、11（日）	日比谷公園
「ロハスデザイン大賞」新宿御苑展	未定	新宿御苑
「エコプロダクツ2015」	12/10（木）～12（土）	東京ビッグサイト
ブロック研修会	未定	未定
「グリーンウェイブ2015」 キックオフフォーラム	未定	未定

2. 「グリーンウェイブ2015」キックオフフォーラム参加レポート

今年も「グリーンウェイブ」のキックオフフォーラムが開催されました。2015年は「国連生物多様性の10年」の折り返しの年でもあり、「国連生物多様性の10年」の後半がスタートする2016年に向けて、UNDB-Jでは関係者が集い、これまでの成果と課題を共有し、2020年に向けて、今後の取組みについて考えることを目的に開催されました。「子森ネット」では、下記の内容で事例報告を実施しました。

(1) 日 時：2月20日（金）13:30-17:30

(2) 場 所：経団連ホール

(3) 主な内容

● 基調講演

「COP12で見た国際的な主流化の動向」道家 哲平氏（IUCN-J）

● 事例報告

事例①：「カシニワ・フェスタ2015」

～多様な主体との連携で行うグリーンウェイブ～

カシニワ実行委員会事務局（一財）柏市みどりの基金

事例②：「社員のアクションを生み出す「グリーンウェイブ」」

積水化成成品工業

事例③：「グリーンウェイブ」を活かしたメディアへのPR

NPO法人子どもの森づくりネットワーク

● パネルディスカッション 「2020年に向けた生物多様性の主流化」



◇「子森ネット」レポート：木工遊具づくり

2015年2月14日、15日の両日で、「東北復興グリーンウェイブ」の参加園である千葉県船橋市「二和ひつじ幼稚園」さんからの要請で、園庭に子どもたちが集う拠点づくりをお手伝いしました。園長先生からは、在園児だけでなく卒園児も集う「砦（とりで）」の様な木工遊具を作りたいとのことでしたので、製作される木工遊具名は「わんぱく砦（とりで）」としました。インストラクターは、チェンソーカービングの世界チャンピオンであり、「子どもの森づくり運動」のスペシャルサポーターでもある「いちほら自然楽校」代表 栗田宏武さんです。保護者のお父さん、お母さんも参加して、みんなで手づくりしました。



今回の遊具の特徴は二つです。一つは遊具全体にクライミングボードのグリップがいっぱい取り付けられており、子どもたちはそれぞれの体力に応じて登り降りしながら楽しむことができます。もう一つは、栗田さんならではの森の動物たちのカービング作品がぜいたくに使用されており、子どもたちの遊び心を刺激してくれることです。「子森ネット」では、そんな木工遊具が、子どもたちが木とふれあう機会を提供する場でもあるということで、今後も園庭の木工遊具づくりをサポートしていきたいと思っています。

ご興味のある方は「子森ネット」までお問合せ下さい。「子森ネット」tel:03-5711-0362

4. 事務局からのお知らせ

「子どもの森づくり運動」と「東北復興グリーンウェイブ」共に、間もなく今年も活動が始まります。以下に、二つの活動に共通のプログラムをご紹介します。子どもたちに活動における大切なことを伝えるためには、折に触れて苗木とふれ合える機会を与えてやっていただければと思います。

1) 苗木をお披露目する活動

地元で子どもたちが拾ったどんぐりや、昨年秋に東北から届けられたどんぐりが芽生えてくれます。そんな季節ならではの活動として「苗木のお披露目会」の実施をお奨めします。子どもたちと共に生命の芽生えを祝い、あらためてみんなで苗木を大切に育てていこうという気持ちを共有しましょう。



2) 植えた苗木の成長を見に行く活動

苗木は、活動に携わった子どもたちの“大きくなあれ！”という願い、そしてそんな子どもたちを見守る保護者や幼稚園・保育園の先生たちの『子どもたちと共に健やかに育て』の願いを込めて植えられ、見守られてまいりました。だから植樹した苗木の成長は、それぞれの実施園における「子どもの森づくり運動」の活動の成果であり、子どもたちの“育ち”のスケールです。そんな苗木を見に行き、その成長をみんなで確認しましょう。



3) 植えた苗木を見守る活動

夏本番を迎え、苗木たちも子どもたちと一緒に元気に育つ季節です。同時に、苗木が植えられたフィールドの夏草も大きく育ち、まだ幼い苗木たちを覆い隠してしまいます。苗木を見守る活動として、有志を募り、夏草刈りを実施しましょう。その際、せっかく育った苗木を一緒に刈らないよう、十分に注意して下さい。



●どんぐり博士の育苗講座～野外活動の安全編⑤～

前回思わぬ暗闇体験で恐怖したことを記しました。今回はその体験を元に、野外での安全や体験と、恐怖心や寒い・濡れるなどのストレスとの関係を考えます。題して「**恐怖心やストレスは感覚を鈍らせる**」です。

どんぐり博士：河内和男（森林インストラクター）



前回の恐怖体験をもう少し記します。山間の細い林道を麓に向かって行くうちに日は暮れてしまい、闇がどんどん濃くなっていきます。ついには自分の足下さえ見えず、股下3分の2は闇の沼の中に入ってしまって歩いている感じで、自分の感覚が全て闇に覆われてしまったときに、麓にたどり着きました。その後、多くの暗闇体験をしましたが、闇で感覚がなくなっていくようなことはありませんでした。逆に闇の中で冷静にしていると、感覚が鋭くなり闇の中に世界が広がっていくことが分かりました。つまり初めての恐怖体験はその恐怖心が自分の感覚を鈍らせ、迫る闇をいっそう深くしていたのだと今になれば分かります。

この私の体験から得られる教訓は何でしょう？ 危険な状態にあるときほど冷静になって五感を研ぎ澄ます必要が有るのはもちろんです。さらに、子どもたちの野外体験の際、天候や地形で、子どもたちは恐怖心や、寒いなどのストレスを感じることがありますが、恐怖心やストレスを持ったままの活動では、感覚が鈍り五感を生かした体験が出来ないと言えます。

穏やかな天候で危険のない場所なら問題ないですが、自然が相手なので好条件ばかりではありません。ですから、条件が悪い場合はいつも以上に活動の導入部分で、恐怖やストレスを取り払うような楽しい活動に時間を割いて準備する必要があると有ります。そうすれば、悪条件下での危険を減らし、体験者はそれぞれの持つ感覚を生かす事ができ、有意義な体験に繋がると言えます。